

2026年度第1回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

日 時：2026年6月19日（金） 9:00～10:50

会 場：豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール室

出席者：委員15名（うち1名オンライン参加）

事務局

欠席者：3名

傍聴者：1名

協議事項

1 豊岡市障害者福祉計画の策定方針について 資料3

豊岡市障害者福祉計画の策定方針を説明。

【事務局が挙げた主な課題】

- (1) 児童期から成人期・高齢期への「切れ目ない支援」、関係機関の連携。
- (2) 障害のある方のことを自分事として捉えにくい現状があり、「障害者への理解」を深めることが重要。

【委員からの主な意見】

- (1) 障害があると分かった時、本人や家族が「どこに相談すればよいか分からない」という状況で、ライフステージごとの連携が長年の課題。障害種別や年齢に応じた「伴走チーム」のような仕組みが必要。
- (2) 障害当事者が相談員として活動する仕組みがあるが、その存在が市民にほとんど知られていないため、周知活動の強化が必要。
- (3) パブリックコメントの際に、市が導入しているオンライン意見収集ツール「シビック豊岡」を活用してはどうか。

2 グループインタビューの実施について 資料4

当事者や家族から直接意見を聞くグループインタビューの実施方針を説明。

【委員からの主な意見】

- (1) インタビューで出た意見は、計画書に載せる概要だけでなく、委員会には障害種別ごとの詳細な結果を共有してほしい。
- (2) インタビューは当事者がリラックスして話せる環境が重要。オブザーバーとして委員が多数参加すると、発言を阻害する可能性があるため、適切な人数調整などの配慮が必要。
- (3) 分析にあたっては、意見をカテゴリー分けするKJ法のような手法を用いると効果的である。

【意見を受けての実施方針】

- (1) 当事者が安心して発言できる環境への配慮を最優先する。
- (2) 委員会では詳細な結果を共有し、議論を行う。
- (3) 委員には事前に日程を共有し、人数等を調整したうえで参加する。

3 アンケート調査の実施について **資料5**

障害のある方やその家族のニーズを把握するためのアンケート調査案について説明。

【委員からの主な意見】

〔対象者の抽出方法〕

- (1) 対象者の抽出について、「65歳以上の身体障害者を10%抽出」という手法は、「高齢者の意見に偏ることを防ぎ、生産年齢のニーズを把握するために有効な手法である」と学識経験者より説明があり、委員の理解を得た。

〔回答者の負担軽減〕

- (2) アンケートの分量が多く回答者の負担が大きい。回答する意欲はあっても途中で断念する可能性があるため、回答しやすい工夫が必要。
- (3) 障害の種別によって回答しにくい設問があるため、構成に工夫が必要。
- (4) 「複数回答」を可能とし、回答方法を柔軟にすることで回答しやすくなるのではないかな。

〔設問内容の改善〕

- (5) 「虐待」という言葉は、身体的なもの以外（言葉の暴力、ネグレクト等）も含まれることが伝わるよう、注釈を加えるなど分かりやすい表現に修正してはどうか。
- (6) 放課後の過ごし方に「ICT・SNS」などの現代の状況にあわせた項目を追加してはどうか。

〔設問項目の精査〕

- (7) 問37「障害のある人への地域の理解」（質問内容が抽象的）、問38「障害者差別解消法の認知」（合理的配慮について別の質問項目あり）の項目について、削減してもいいのではないかな。

〔その他〕

- (8) 今回からWeb回答を導入することで、回答率の向上を期待する。

【意見を受けての実施方針】

- (1) 問37「障害のある人への地域の理解」の項目は、「当事者の主観的な実感を知ることは、市の施策評価の上で重要」であることから本項目は削除しない。
- (2) 虐待については、例示を追記する。
- (3) 放課後の過ごし方については、特別支援学校の先生のご意見を聴取し、設問に反映する。
- (4) アンケートの分量や構成については、正副委員長と事務局で協議し、障害種別で設問を分けるなどの工夫も含め、より回答しやすい形式を検討する。

4 その他の主要な意見

手話言語条例に基づき、市民への手話の普及啓発や、国の動きと連動した手話通訳者の養成といった具体的な施策を、次期計画に盛り込むよう要望する。

次回委員会について

開催時期：2026年9月頃を予定

主な議題：現行計画の進捗状況の評価 等